

1 学校教育目標

豊かな心・感性・知性・体力を身に付け、世界に羽ばたく青井の子どもの育成

- よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の定着を図る学校 ・様々な体験を通して、豊かな心とあきらめないでやり通す強い心と、健康な体を育てる学校 ・保・幼・小・中の連携をより一層推進することで教育活動の充実を図る学校 ・地域社会に開かれた学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活習慣や家庭学習の習慣を身につけ、確かな学力を身に付けた児童 ・失敗を恐れず、何事にも積極的に挑戦し、自ら進んで心と体を鍛えようとする児童 ・社会のルールを理解し善悪の判断力・規範意識を身に付け、自信をもって中学校を目指す児童 ・相手を思いやることの出来る豊かな心をもった児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・服務に厳正であり、人権感覚を常にもち、自らの力を伸ばし続けられる教師 ・児童・教職員・保護者・地域の方々とコミュニケーションが良好に図ることができ、相手の思いや考えを理解し、相手の立場に立って考えることができる教師 ・主体的かつ的確な判断ができ、限られた時間を活用して職務の効率化を図り、組織的に課題解決に取り組むことができる教師 ・教師としての基礎基本（東京都教育委員会が示す「学習指導力」「生活指導力・進路指導力」「外部との連携・折衝力」「学校運営力・組織貢献力」及び、「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」「デジタルや情報・教育データの利活用」等）、人として社会人としてのマナーを身につけた教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

(1) 学校の現状

①学校について

「基礎基本の定着」「若手教員の育成」「自尊感情・自己肯定感の育成」「健康教育の推進」を中心に教育活動を展開した。地域・家庭との協力を得て教育活動の成果を上げていると考える。

②児童について

明るく素直であり、心優しい児童が多い。基本的な生活習慣、学習習慣・家庭学習の定着に課題がある児童や特別に配慮や支援が必要な児童がおり、個に応じた丁寧な指導が求められる。課外活動の金管バンド部・サッカー部・ミニバスケットボール部の活動にも積極的に取り組んでいる。

③教師について

教職員は子どもの教育に熱心で、職務に取り組んでいる。また、授業の中に積極的に ICT 機器の活用を取り入れようとする教員も増えている。しかし、経験が少ない教員が多いため、教科指導専門員の指導を受け、経験のある教師が若い教師を育て、教育活動の工夫・授業改善に努めている。

④保護者・地域について

地域の学校という意識が高く、学校を愛し支援してくださる方が多い。保護者・地域の方々は、学校教育に理解を示し、とても協力的であり、毎日、児

童の登校時間、下校時間に横断歩道に立ってくださったり、パトロールをしてくださったりしている。

(2) 前年度の成果と課題

- ①「課題解決型授業展開の工夫」をテーマにして授業力の向上に取り組んだ。小中連携事業（中学校1校、小学校2校）の中で、授業研究を進め、教員の授業力向上を目指した。学力の向上を図るため、児童の学習内容の定着状況を定期的に診断し、指導に生かしていく。
- ②基礎基本の定着を目指し、放課後の補習、3月に実施したプレテストの結果分析を行い、学年ごとに具体的な対策を立て、今年度に次年度の学年に引き継いだ。特に、放課後補習教室「あおいゆうやけ教室」や「そだち指導」により、個に応じた指導を充実させている。今後も継続して取り組む。
- ③コロナ禍で中止になっていた、あいさつ運動、地域貢献の取組（全児童による地域清掃）を復活させ、今年度実施し地域との交流を進めることができた。また、地域のお祭りやPTA主催の子供フェスティバルなどの催しにも、学校として協力し、児童や教職員の参加を促すことができた。
- ④行事の充実、部活動（金管バンド部・サッカー部・ミニバスケット部）の指導により、感動体験や達成感を感じる機会を増やし、自尊感情を高める活動を工夫した。継続して取り組む。
- ⑤A Iドリルの活用を推進し、授業の中や家庭学習での取り組み方を検討している。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	いのちを大切にす教育の推進	◎	◎	◎		
3	健やかな体の育成	◎	○	◎		

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎・基本の定着		90%		12月実施の確認テストの結果平均通過率は86.2%であった。		引き続き基礎学力の定着に重点を置く必要がある。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	朝学習	全児童 国語 算数	毎週 火、木 始業前 15分	【指導者体制】 担任・専科 【取り組みのねらい・目的】 学習内容の復習・確認を行う。 【使用教材】 プリント教材、AIドリル	定着度確認テスト (7月、12月、 3月実施)	3月に実施する定着度確認テストで目標値を通過する児童90%を目指す。	3月に実施した定着度確認テストでは、目標値を通過した児童は、国語81.2%、算数81.8%、全体として81.5%であった。	クラスによって通過率に差が出ている。特に算数にその傾向が強く出ているので定着を図る取り組みを工夫する必要がある。	○

2 継続	放課後補習 教室	全学年 (学力調 査の結果 から抽出 した児童)	毎週 木 放 課 後 45分	<p>【指導者体制】 全教員・学習支援員・</p> <p>【取り組みのねらい・目的】 勉強ができる喜びを味わわせるために実施。つまずきをさかのぼり、基礎となる問題や演習問題を中心に少人数指導。苦手なところを克服させる。</p> <p>【使用教材】 プリント教材(次へのステップ、東京ベーシックドリル等) AI ドリル</p>	定着度確認テ スト (7月、12月、 3月実施)	3月に実施する 定着度確認テ ストで目標値を 通過する対象児童 70%を目指す。	3月に実施した定着 度確認テストでは、 対象児童の通過率は 70%を上回った。	計画通り実施する ことができている。今 までの取り組み以外 に、AIドリルの利 用などの工夫をする ことによって、学習 意欲や学習習慣の定 着を目指した指導を 引き続き行う必要が ある。	○
3 継続	サマースク ール	全学年 (学力調 査の結果 から抽出 した児童)	夏 休 み 期 間 中 の 10 日 各 日 60 分	<p>【指導者体制】 全教員、中学生ボランティア 教職員を全学年に分担し、少 人数指導のもと進める。過去 学年にさかのぼったつまず きの克服や、現学年の授業内 容で理解が完全でない内容 の補充問題を行う。</p> <p>【使用教材】 プリント教材(次へのステッ プ、東京ベーシックドリル 等) AI ドリル</p>	着度確認テ スト (7月、12月、 3月実施)	3月に実施する 定着度確認テ ストで目標値を 通過する対象児童 70%を目指す。	3月に実施した定着 度確認テストでは、 対象児童の通過率は 70%を上回った。	どの学年も、参加率は 80%を超えることが できたが、猛暑日が 続き、夏季プールの 実施が中止になっ てしまう日が多く、 児童の学習意欲が 下がってしまふこ とがあるので実施 方法を再考する必 要がある。また、 中学生ボランティア については、今回 は実現できなかった ので、次年度につ いては、早めに打 ち合わせをして進 めていく。	△
4 継続	家庭学習の 手引き発行	全学年 全員	年 1 回 4 月	<p>【取り組みのねらい・目的】 「開かれた学校づくり協議 会」と協力し、年間を通した 家庭学習の啓発をねらいと した家庭学習の手引きを 4 月に発行する。</p>	児童アンケー ト「学年の実 態に応じた学 習時間」	児童アンケート 「家庭学習の目 標時間達成」を 前年度以上とす る。	学年に応じた学習時 間に達成できた児童 は 85%を超えるこ とができた。	家庭学習の大切さを 保護者会等で引き 続き伝えていく。ま た、AIドリルの活 用方法についても知 らせ、協力していただ く。	○

5 継続	組織的な取組による教師力の向上	全教員	通年	<p>【取り組みのねらい・目的】</p> <p>①小中連携をさらに推進し中学校教員の専門性や指導技術を小学校にも取り入れ、小学校教員の指導力の向上を図る。</p> <p>②若手教員対象に教科指導専門員による指導を受け、足立スタンダードに基づいた課題解決型授業について学ぶ。</p>	児童アンケート (12月)	児童アンケート 「授業がわかりやすい」の項目で肯定的評価90%を目指す。	児童アンケートで「授業が分かりやすい」の項目で肯定的評価は、88.7%であった。	ほぼ目標値を達成できたが、引き続き、教員の授業力向上を図っていく。次年度は、お互いの授業を観る時間を増やしていく。	○
6 継続	放課後自習室「学 viva (まなびば)」	第5・6学年児童	通年 火、金	<p>【取り組みのねらい・目的】</p> <p>家庭学習など、学習習慣が身に付いていない児童に対して、自主的に学習に取り組み時間と空間を提供する。</p>	学年に応じた学習時間	児童アンケート 「家庭学習の目標時間達成」を前年度以上とする。	学年に応じた学習時間に達成できた児童は85%を超えることができた。	計画通り実施することができた。保護者にも、引き続き家庭学習の大切さを伝え、家庭との協力体制を整えていく。	○
7 継続	学力調査後と確認テスト後の学年面談	全教員	7月 12月 3月	<p>【取り組みのねらい・目的】</p> <p>確認テスト後に、学年ごとに調査結果の分析・検討を行い、具体的な対策を検討する。</p>	定着度確認テスト (7月、12月、3月実施)	3月に実施する定着度確認テストで目標値を通過する児童90%を目指す。	3月に実施した定着度確認テストでは、目標値を通過した児童は、国語81.2%、算数81.8%、全体として81.5%であった。	各学年と面談をし、国語と算数のそれぞれの児童のつまづきを分析させ、具体的な手立てを考えさせた。年間3回の定着度確認テストで経過分析を行い、手立てを改善させた。現学年での分析・結果を次年度の学年に引き継いでいく。	○
8 継続	ICTを活用した授業の取組	全教員	通年	<p>【取り組みのねらい・目的】</p> <p>タブレットを活用した学習活動を行う。 AIドリルを効果的に活用し、学力向上を図る。 教師がICTを活用し授業改善を行い、授業力向上をめざす。</p>	教員一人一人が使用する目標を決める。	教員が決めた目標100%の実施をめざす。	各教員が設定した目標に対して、95%以上を達成した。	全教員がタブレットを授業の中に取り入れ授業改善を目指した。教員のスキルに差があるので、校内での活用研修を3回実施した。	○

9 継続	区調査の分析・活用	1年～6年担任	年3回	【取り組みのねらい・目的】 確認テスト後に学年ごとに調査結果の分析・検討を行い、具体的な対策を検討する。 区の算数の学力調査の結果、苦手な単元をあらいだし、算数の年間指導計画を見直す。 時数を1時間から2時間多く取り、学力の向上を図る。	定着度確認テスト (7月、12月、3月実施)	3月に実施する定着度確認テストで目標値を通過する児童90%を目指す。	3月に実施した定着度確認テストでは、目標値を通過した児童は、国語81.2%、算数81.8%、全体として81.5%であった。	全体としては、ほぼ目標値を達成しているが、クラスによって通過率に差が出てしまったので、定着を図る取り組みを工夫する必要がある。	○
---------	-----------	---------	-----	---	---------------------------	------------------------------------	---	---	---

重点的な取組事項－2		いのちを大切にす教育の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
いのちを大切にす教育の推進		児童アンケートで、「友達を大切にしている」の項目で児童の割合90%	児童アンケートの結果、肯定的評価が98.9%であった。	継続して、いのちを大切にす教育を推進していく。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自尊感情・自己有用感の育成	①保護者アンケートで「楽しく学校生活を送っている」の項目肯定的評価が90%以上 ②児童アンケートで「学校に行くのは楽しいか」と回答する児童の割合、90%以上	①毎月25日を「青井小いのちの日」として、児童朝会の校長講話とすべての学級の道徳の時間での「生命尊重」の授業を実施する。 ②金管バンド部・サッカー部・ミニバスケットボール部の活動を充実させ、感動体験や達成感を味わう機会を設ける。	児童アンケートで、「友達を大切にしている」と肯定的に回答した児童の割合は、98.9%であった。また、「学校へ行くのが楽しい」と肯定的に回答した児童の割合は、80.3%であった。	①道徳教育、人権教育の推進により、友達への思いやりや生命を尊重する態度を引き続き指導していく。 ②部活動の取り組み方については教員の働き方改革とのバランスを考えて改善しながら取り組んでいく。	◎
読書活動の充実	①児童アンケートによる「読書量の増えた児童」の割合95%以上 ②お話し会、読み聞かせ等の機会を年間各学年2回以上 ③読書の時間の確保	①朝読書等の読書タイム(15分)を週2回、年間70回以上実施する。 ②読書ボランティア・図書館支援員等と連携し、読み聞かせ、ブックトークを実施する。(年2回)音楽大学と連携し「お話しコンチェルト」を年1回実施する。 ③図書室を開放する時間を増やし、読書機会を多く設定する。	朝読書等の読書タイム(15分)を読書強化週間には週2回実施することができたが、年間を通しては難しかった。本の貸し出し状況は、昨年度より上回った。「読書量の増えた児童」の割合は、77.4%で昨年度より減少した。図書ボランティアによる「大話し会」は、2回に分けて実施できた。	引き続き、図書館支援員の協力を得ながら、学校図書館計画に沿って読書活動を推進していく。 図書ボランティアや大学サークルとの連携を強化しながら読書活動を充実させていく。	○

特別支援教育の推進	<p>①特別支援学級との交流及び協同学習を年間通して実施する。</p> <p>②地域の障がい者施設との交流を年間1回以上実施する。</p> <p>③全学級において、障がい者理解教育のための授業を年1回以上実施</p>	<p>①学校行事、縦割り班活動だけでなく、教科・領域においても交流及び協同学習を実施する。</p> <p>②地域の障がい者施設との交流を低学年で実施する。障がい者理解と共生社会の担い手としての意識を芽生えさせる。</p> <p>③外部講師等による講演会を年1回以上実施する。</p>	<p>①特別支援学級との交流及び協同学習を年間を通して実施することができた。</p> <p>②今年度も、障がい者施設との直接交流はできなかったが、児童フェスティバルに参加してもらった。</p> <p>③全学級において、障がい者教育理解のための授業を年1回以上実施することができた。また、学校保健委員会で児童理解のための講演会を開くことができた。</p>	引き続き、児童の障がい者理解教育をさらに進め、互いを尊重し認め合う態度を養っていく。	○
-----------	--	---	--	--	---

重点的な取組事項－3		健やかな体の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
進んで健康な暮らしをする態度の育成		児童アンケートで健康への関心が高まったと回答する児童が90%以上	児童アンケートで健康への関心が高まったと肯定的に回答する児童の割合は、78.1%であった。	健康な生活という点で、児童の関心が低く、生活習慣等の指導が必要である。また、保護者会等で、保護者に伝え、家庭との連携を図る必要がある。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力づくりの習慣の定着	<p>①1日30分、外遊びか運動をする児童が90%以上</p> <p>②体力調査で区の平均を上回る項目数を7割以上</p>	<p>①持久走大会、長縄チャレンジ、なわとび集会の実施</p> <p>②体育科の授業改善による運動の日常化の推進</p> <p>③投力向上のための指導方法の開発と実施</p>	<p>①持久走記録会、長縄チャレンジ、縄跳び集会を実施することができた。</p> <p>②校内の体育部が中心となって運動の日常化を進めているが、定着していない。</p> <p>③投力の向上のための教材を工夫し、体育の授業での取り組みを進めることができた。</p>	体力づくりの習慣を定着させるためには、新たな取り組みを考える必要がある。	○
健康教育の推進	<p>①う歯の受診率90%以上</p> <p>②生活実態調査で、早寝早起きの習慣がついた児童80%以上</p> <p>③2月の生活実態調査で、朝食の摂取率を100%</p>	<p>①歯科検診を年間2回実施する。個人面談の際に未治療者に治療勧告をする。</p> <p>②養護教諭による、保健指導を年間15回実施する。</p> <p>③生活実態調査を年3回実施し、規則正しい生活を実践するための関心と意欲を高める。</p>	<p>①う歯の治療率は75.4%であった。</p> <p>②生活実態調査で、早寝早起きの習慣がついた児童は、78%であった。昨年度と同じ割合。</p> <p>③生活実態調査で、朝食の摂取率は、98%で、昨年とほぼ同じ結果となった。</p>	引き続き、健康教育については、指導を行っていく。う歯治療率は、次年度以降、受診率をもって指導の経過を観察していく。	○

食育の推進	①食に関する指導を年間 15 回以上実施する。 ②残菜率を一か月平均 2%以下にする。	①誕生日給食の際に、栄養指導を行う。(年 1 2 回) 食に関する指導を 3 回以上実施する。 ②「もりもりウィーク」等で、完食した学級を表彰し、児童の食への関心と意欲を高める。	①食に関する指導を年間 15 回以上実施することができた。(給食放送も含) ②「もりもりウィーク」期間中の完食率は 100%であった。年間を通して、残債率は 1.3% (昨年度より、0.2 ポイント減少) になり、目標を達成することができた。	引き続き、食の関心を高めるための指導の工夫を行っていく。	◎
-------	--	--	--	------------------------------	---

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力の向上

- ・3月の確認テストの結果、国語全校通過率 81.2%、算数全校通過率 81.8%、平均通過率 81.5%であった。各学年と面談をし、国語と算数の苦手なところを分析し、具体的な手立てを考えた。国語は全体的な傾向としてはじめて読む文章について、苦手意識が強く、書いてある内容をとらえ理解することが課題としてあげられる。手立てとして、教科書以外の文章にふれる読書活動を通して、読む習慣をつける。また、言葉に関する理解する力も課題となる学年があり、ドリルなどを用いて漢字や語彙力、をつける。算数は、データの活用が低く、表やグラフにまとめる学習を丁寧に行い、日常生活から、表やグラフに親しむ機会を増やしていく。

家庭学習の目標時間の達成率は、12月の時点で 85.4%であった。引き続き指導を継続する。

重点的な取組事項－2 豊かな心の育成

- ・校長による「いのちの講話」を年間 11 回、教室では、担任による生命尊重の授業を年間 11 回実施した。児童アンケートで「友達を大切にしている」と回答している児童は 98.9%であった。児童の読書活動の充実のため、一人あたりの本の貸出し数を増やす等の取組により、前年度に比べ、学校での図書の本の貸出量は増えているが、児童の感覚として、読書量が同等もしくは、増えたと答えた児童は 77.4%で減少してしまった。特別支援教育の充実のため、特別支援学級との交流学習を年間通して行った。また、校内行事の中で各学年と交流活動を行うことができた。今後も児童の実態に応じて行っていく。

重点的な取組事項－3 健やかな体の育成

- ・持久走大会を持久走記録会とし、より身近で取り組みやすい方法で実施することができた。練習も 3 週間、中休みの時間に記録会と同じ方法で行うことができた。児童は、自己ベストを更新しようと意欲的に取り組むことができた。しかし、運営方法に課題が残ってしまった。長縄チャレンジは 9 月から実施し、4 クラスが区の記録を達成することができた。体育科の教員の実技研修を年 3 回、年間を通して授業を参観する体制を取ったことにより、授業改善につながった。学校保健委員会では、開かれた学校づくり協議会の区内保健所と連携し、歯科衛生士を講師として迎え、児童理解のための講演会を行うことができた。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

今年度、コロナの感染状況が弱まり、地域のお祭りや P T A 主催の児童フェスティバルが再開され、学校と地域・保護者との交流の場を増やすことができた。地域の方々には、日ごろから子どもたちを見守っていただき、子どもたちは落ち着いて学校生活を送ることができた。まだ、コロナ感染について気を付けなければならないが、「運動会」「音楽会」などの行事も開催することができ、たくさんの方に、参観していただき、あたたかいお言葉をいただくことができた。子供たち、教職員にとって大きな励みとなり、次への意欲につながる

ことができた。今後も、様々な場面で、子どもたちの学校での様子を、保護者・地域の皆様に参観していただき、子どもたちを励ましていただきたいと思います。

令和 6 年度も、授業内容の工夫・改善を図り、より学校の教育活動を充実させ、一層充実した教育活動を行っていく所存である。

(3) その他 (学校教育活動全般について)

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、保護者・地域の方々のご支援、ご協力のもと、教職員が日常の教育活動等や学校行事を工夫しながら、子供の指導に積極的に取り組んできた。

※保護者のアンケート (1 月実施) の結果は、次の通りである。なお、() 内は、肯定的意見の割合である。

「教育目標、方針、様子をわかりやすく伝えている。(86.0%)」

「学校からの文書や連絡等はわかりやすく、内容は適切である。(90.1%)」

「部活動等、特色ある教育活動を行っている。(80.1%)」

「児童の学校生活がよくわかるように工夫している。(86.9%)」

「学習方法を工夫してどの児童にも基礎学力が定着するようにしている。(89.6%)」
「児童の体力向上、健康の増進のための取り組みを行っている。(88.8%)」
「命を大切にすることや思いやりの心をもつことの指導に努めている。(74.6%)」
「事故防止に努め、子どもの安全を守るための指導や取り組みを行っている。(84.6%)」
「教員は、児童の努力を認めたり、励ましたりして温かく接している。(90.5%)」
「教員は、良くない事はきちんと指導し、授業、生活のルールを守らせている。(93.6%)」
「児童は楽しそうに学校に通っている。(90.1%)」
「児童は家庭学習の習慣が身についている。(75.1%)」
「児童は地域や家庭で元気に挨拶をしている。(75.6%)」
「児童は『早寝・早起き・朝ごはん』等の生活習慣が身についている。(79.2%)」

わからないという回答が減っているのは、コロナの感染拡大の状況が落ち着き、様々な行事に保護者や地域の方に来校していただき、学校の様子を伝えることができたためだと思う。アンケートの結果、どの項目も80%以上の肯定的評価をいただくことができた。今後も保護者、地域との密接な連携のもと、子供たちを指導していくことの重要性を実感している。教職員の力を結集し、「子どもが楽しく通う学校」を目指して教育内容の充実・改善に努め、「青井 Brand (あいさつ・おもいやり・一生懸命)」を身に付けた子供たちの育成を図る。

また、本校は地域、開かれた学校づくり協議会の協力のもと、今年度も花壇、整備を実施することができた。草花を植え育てることは、生命に対する畏敬の念を養ったりするなど、教育的価値が高い。観察や活動・体験を通して、子どもの心を育てていく場として、環境教育の一環として、引き続き本校の特色としていく。

金管バンド部の地域行事への参加、サッカー部・バスケットボール部の区内小学校の大会への参加などにも、多くの保護者や地域の方々の参加と協力を得られたので、スムーズに運営することができた。課外活動は、児童の健全な心身の成長を図る上で、本校にとっては重要な教育活動として位置づいている。挨拶や礼儀の指導の徹底により生活指導面でも成果が顕著に表れているばかりでなく、朝練などによって部員の生活サイクルが整い、遅刻者が少ない等の成果にもつながっている。来年度も、練習方法を工夫・改善しながら部活動の様子や成果等の広報に努め、これらの課外活動も充実させ学校全体の活性化と児童の自尊感情・自己肯定感の育成に努めていく。